

「春の桜づくし」の和生菓子

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆
小林国二・小林善秋・高橋潔・加瀬由紀子
室賀清輝・近藤マリ子・高橋利春・近藤善信
後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

アカデミー賞受賞映画 詩歌集「古詞源」に思う

翠巖 龍弘

今年には雪国長岡も暖冬で屋根の雪下ろしを心配することもなく、例年ですと「どんより」とした日が続き、太平洋側の天気を羨ましく思うことも多々ありますが、今年には太陽を拝める日も多く、暖冬のため、灯油も例年の六割弱ですみそうです。庭の椿は雪囲いの中で開花したものや、蕾の先が紅くな

りだしたものもあり、三寒四温を繰り返しながらも春が庭先まで来ていると感じられる昨今です。しかし、山々の方も少雪のため、多くの積雪による自然のダムなる水が、夏場不足するのではと心配される人もあります。地球温暖化が身近に感じられるようです。二月二十三日、映画界最大の祭典、第八十一回アカデミー賞で、外国語映画賞を滝田洋二監督の「おくりびと」が、短編アニメ賞を加藤久仁生監督の「つみきのいえ」が、それぞれ受賞し、日本映画が二部門を制覇したことで、日本中が久々の明るいニュースで沸き上がりました。

「おくりびと」は山形県が舞台で、遺体を柩に納める納棺師の目を通して人の尊厳を問うもので、春秋のお彼岸、お盆、命日や年回法要などで仏壇やお墓参りを通して故人を偲び、亡き人との心の絆を大事にしてきた文化を持つ日本。しかし現在は世界が拝金主義や自国、自分本位の考えが謳歌、他への思い、

お互いに生かされている、受け継がれてきた生命の尊さなどを考え、感じている人が減ってきた時に、遺族と死者との濃密な関係性が人々の心を癒したり感動を与え、受賞されたのではないのでしょうか。清の沈徳潜（一六七三～一七六九）が編集した詩歌集「古詞源」に次のような詞が載せられております。

『日出而作 日入而息 鑿井而飲 耕田而食 帝力于我何有哉』(日出でて作し、日入りて息う、井を鑿って飲み、田を耕して食らう、帝力我に于て何か有らんや)老人に人が「堯帝の徳は大したものだ」と称え、老人がこの歌をうたったという。昔の理想的な生活が伝わってくるおらかな歌であるといわれております。化学の発達、豊かさとは何か。文明の進歩は人間に何をもたらしたのか。映画「おくりびと」、「つみきのいえ」やこの詞は現代社会、全世界の人々にあらためて問いかけていられるように感じられます。

且らく自らを信ぜんことを要す、外に向かつて覓むる莫れ。 『臨濟録』

【日々精進(結婚間近! 特別編)】

すべては無駄なく、ありがたく 近藤真弘

今冬は真冬日がすくなく
まま、春を迎えようとして
おります。この時期になる
と八年前、大本山總持寺で
の修行を直前に控え、なん
ともいえない不安を感じて
いたことを思い出します。

先日、今春から總持寺で修
行を始める県内のお寺のお
弟子さんに、本山に上山する
前に基本的な進退作法を教
える機会がありました。



食器があるのですが、その使
い方の説明をしました。
この応量器というのは簡
単に説明すると、頭鉢(ずは
つ)と呼ばれる大きな器の
中に四つの器が納められて
おりその他に箸と匙(かい)
と呼ばれるスプーンの様
な物と、刷(せつ)と呼ばれる
定規のような形状の先端に
晒が巻かれている物、鉢単
(はったん)と呼ばれる折り
たたんだ敷物などがコンパ
クトにまとめられて、風呂
敷で包んである物です。

坐禅堂で坐禅をしながら
食事を頂くときに使用する
のですが、使い方にとても
細かい決まりや、作法があ
り、修行に行くとき必ずその
指導を受けます。私も總持
寺での修行が終わり日常の
生活の中でこの応量器を使
うことが無くなり、このと
き久しぶりに応量器を広げ

て見ました。

始めは応量器を展開する
手順で忘れていたところも
ありましたが、やり始める
と体が覚えているもので徐
々に思い出しながら、二人
の新しい修行僧に無事に教

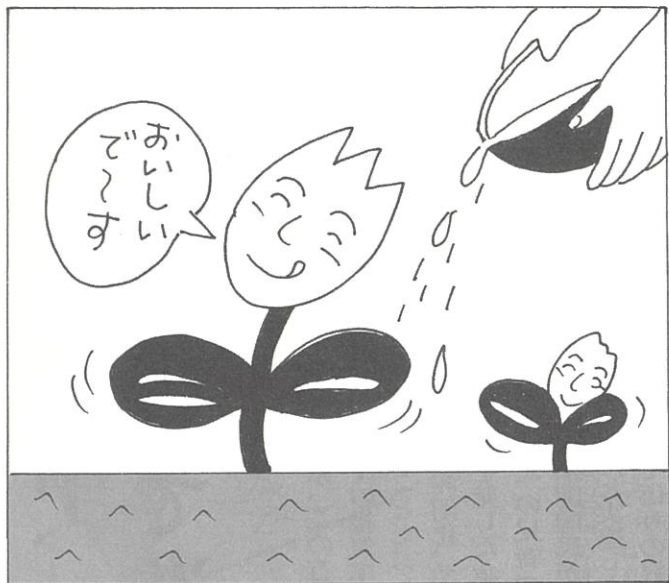


えることが出来ました。
この度、応量器を久しぶ
りに使い、その説明をして
いる時に私は改めてこの応
量器という物のすばらしさ
を実感いたしました。それ
は何かと申しますと、近年、

世界中で「エコ」という言葉
が叫ばれています。「エコロ
ジー」の略で、資源を無駄に
せず、ゴミの廃棄量を減ら
し、二酸化炭素の排出量を
減らすリサイクル活動など
のことですが、その一環と
して、割り箸を使わず、自分
の箸を持ち歩いたり、スー
パリーの袋を使わずに「エコ
バック」という自分のバッ
グを利用したりと、様々な
ことがエコの名の下で行わ
れています。応量器は正に
無駄を一切省いたここで言
うエコそのものです。

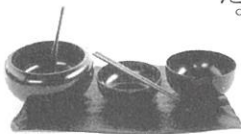
応量器自体一生使える物
ですが、応量器を使った食
事は無駄を一切出さない手
順で行われます。食事を頂
く量は応量器の名の通り、
自分に合った量だけ頂き、
食べ終えた後は少量のお湯
で、すべての器を刷を使っ
て綺麗にし、使用した少量
のお湯も手桶で回収し、草
木に与えたり、河に流して
他の生き物に与えます。





スーパーの使い捨ての袋、その他のものにも多くの無駄が生じてきます。
道元禅師は食事を頂く際の心構えとして「五観の偈」という偈文を唱えました。その中の四つ目に「四つには、正に良薬を事とするは、形枯を療ぜんがためなり」という偈文があります。薬であっても必要以上に飲むことはしません。食事も必要以上無駄に頂くのではなく、姿形が枯れない程度に頂くことが大切でありその

ことが、頂く命に無駄を生じないことであり、自分自身にも良い薬を頂くことと同じである。というような意味です。
エコというのは一人ひとりが命の大切さ、命を尊重することで成り立っていくのだと応量器を使いながら感じました。



ここで話しは変わり私事ですがこの季刊誌の紙面をお借りしてご報告させていただきます。
この度ご縁を頂き、四月四日に結婚することになりました。
檀信徒の皆様には披露宴の招待状を送らせていただきました所、多くの皆様からご出席のご返事、またお



祝いのお言葉や、ご祝意を頂き、大変感謝いたしております。
婚約者の玉置久美子さんは同じ曹洞宗の常観寺(兵庫県加古川市)の生まれです。県外から、そして雪の降らないところなので長岡に慣れるまで皆様に、私共々ご指導いただきたくお願い申し上げます。



藤本幸邦御老師と記念写真



曹洞宗 常観寺

変わる世の中、 自信をもつて進もう！

沼田金之

「CHANGE!」「YES WE CAN」
WE CAN!」1月20日米
国に初の黒人大統領が誕生
した。第44代大統領となる
バラク・オバマだ。スマート
で力強い演説、そのエスニ
ックな生い立ち、若い頃か
らの卓越した経歴、どれを
とつても特筆すべきもの
だが、何よりもこの選挙で

目を引いたのが、この百年
で最高というその投票率61.4
%だ。どうということだ。アフ
ガン、イラクの泥沼化、サブ
プライムに端を発した金融
恐慌と大不況への足音(選
挙当時)。遂に米国民が立
ち上がったのだと実感した。
そしてこれまで偽りの経済
から何としても脱皮を図ら

ねばという強い意志の表れ
であると思えた。世界は明
らかに変わっていく。
現在「あなたは日本人で
すか」と問われ、「そうです。
私は日本人です」と堂々と
答え、自分なりの日本論、日
本人論を自信を持って語れ
る人が日本にどれほどいる
であろうか。昨今の腐敗、偽
装、欺瞞の世の中、あの真面
目、こつこつ、勤勉、実直の日
本人はどこへ行ってしまっ
たのだろう。思案に暮れる。

日本人がどこから来たの
か、その議論はしない。ただ
云えることは春夏秋冬、は
つきりした四季をもつ、山
地面積約七割の島国で、我
々の先祖は村社会特有の和
を尊ぶ精神で、国を作り、国
を守り、家族を養い、子供を
育て今日に至った。

文明の進んでいた中国と
の間にはちょうどよい距離



の海原があり、征服もされ
ず、文化の伝承もできた。誠
に恵まれた環境にあったと
いえる。
江戸時代の鎖国は独自の
文化を生み出し、第二次大戦
後は米国が大きい意味で朝
鮮戦争も含め共産ソ連の防
波堤にと資金を落としたお
かげで、同戦勝国が恐れれた、
自国よりはるかに優れた文
盲率の低さ、識字率の高さを
持つ我が先祖は大変な復興
を成し遂げたのである。

その中心にあったのはチ
ームワークよく、少ない資
源をうまく活用した人々の
知恵であった。日本の最大
の資源は「人」である、とよく
云われる。「そうだ、激動の今
後、そして変わる世の中、そ
の中で寄与していくために
は、この「人」を如何に作っ
ていくかではないか」。

まず人を生み、育てる場

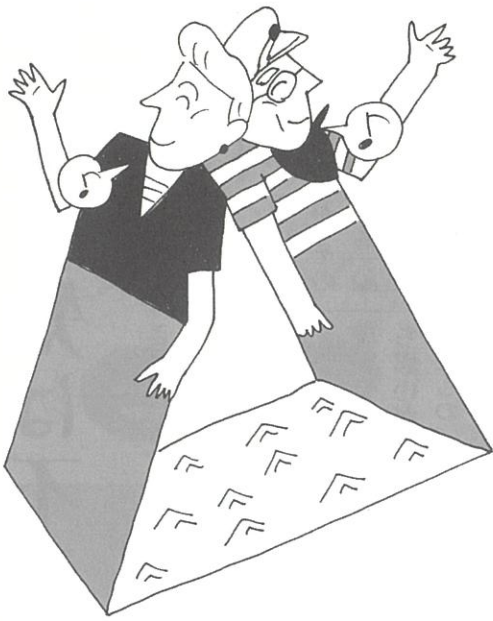


所は家庭にある。この家庭
のあり方、育てる側に本当
の愛があるのかどうか、そ
してその良し悪しも問題に
なる。まだ戦中派の親たちの
教えが残っている。その家庭
教育の復活はどうだろう。即
ち、定年退職者たちの家庭教
育者への道である。

次に、学校である。教師に
いい人材が集まるような待
遇改善、社会的地位の復活
などが重要である。モンス
ターペアレンツなど問題外
で、自信を持って子供たち
の教育に当たれるようにす
る。「でもしか先生」では良い

子は育たない。
そしてその育った者たち
の進路である。やはり、実経
済の基本中の基本、物づく
りへの注力、注入だろう。特
に日本の強み、中小企業に
物づくりのいい人材が向か
うよう、やはりその生活、地
位、名誉などが高められな
ければならないと思う。

それでは大企業はどうだ。
良くも悪しくも島国日本、
組織内秩序は重要だ。年功
序列、終身雇用の復活であ
る。心配ない。どんなに年功
序列といつても昔から上の
一割は年に関係なく昇進し、



下の一割の昇進は長らく見送られてきた。成果主義がすべて悪いとは言わない。ただその基準を明確に制定し厳格に実行すること、この国の国民性にはあまりそぐわないように思う。

そして新人事制度。このことばの響きは一般的にはネガティブに聞こえるようだ。人を追い込むこともある。ただ再雇用市場も充実していない社会では、それは崖に突き落とすのに等しい。

とにかく貧しくても安定だ。もう一度組織に忠誠心を持つような個人との関係がいいだろう。サービス業、

商社、金融は更に少数精鋭にすべきで、一騎当千から一騎当万くらいの人材が必要である。

法律を制定する政治家、その中で実行する官僚、この癒着があつてはならぬ、ましてや私腹を肥やすのは以ての外。年金問題は国家的犯罪である。利権に群がる政治家は国民の敵である。国のリーダーとなるべき政治家、官僚、企業経営者はやはり高い視野から常に天下国家を見据え、考える見識が必要とされる。もちろん国民目線から離れているような政治家は即刻退場さすべ

きである。

更に感ずるところがある。小生現在、社外にローイングクラブ(年齢は14歳から78歳、国籍は十ヶ国以上、身障者も含め老若男女三百五十名が所属。毎週土曜日に鶴見川で二時間、エイト、ナックルフォア、ダブルスカールなど漕いでいる)を組織し、経験・未経験を問わずボートを漕ぎたい人は「来るもの拒まず」でどんどん受け入れている。昨年だけで二百名を越える人たちが門を叩いてきた。

企業には派遣労働者が多くなり、その勤務外クラブ活動も下火、学校では市中スポーツクラブの発達のものと、体育会的運動部の敬遠等々の社会現象もある。ただ、一歩引いて見ると、そこには人と人との交わりのなくなった寂しさが漂っているようだ。それが我々のクラブがどんどん大きくなっている原因ともとれる。

わかった。貧しくても、愛、温もりを以て人を育て、偽りの経済から脱却し、物づくりを中心とする実経済社



「プロフィール」

会に身をおく、高潔な政治家、官僚、企業経営者を頂き、人々はチームワークよく、まじめ、こつこつ、勤勉、実直で物事を遂行する。それこそが、日本が、日本人が世界の手本になり、変わる世の中、次世代社会構築への寄与であると考ええる。

さあ、我々も「変革だ!」、自信を持って進もう。そして「絶対に成し遂げられる!」成し遂げるのだ!」。

沼田金之様54歳。三井物産株式会社鉄鋼製品本部 シニアマネージャー。エネルギー本部、物資本部、鉄鋼製品本部と、原料・燃料、日常小物、基幹産業、新規商内開、J/V設立その経営等々幅広く業務に従事。様々な分野に興味。知見とネットワークを持つゼネラリスト。

趣味：スポーツ全般、特に漕。250名を有するローイングクラブ「パワーズ」を設立・組織・運営。エイト、フォア等毎週土曜日2時間汗を流す。また陸上競技観戦。世界選手権等全日程観戦。うまいもの食へ歩き。

お別れ

(平成二十一年一月〜二月末)

玉垣善一郎様 一月四日寂
十日町市下川原町

吉野 恭平様 一月六日寂
千葉市美浜区

若林 英二様 一月十日寂
長岡市宮内

吉田 鐵郎様 一月十一日寂
長岡市長町

南雲 一芳様 一月十四日寂
長岡市下山

榎本 茂様 一月三十一日寂
長岡市下山

星 菊次郎様 二月十八日寂
長岡市花園

多田 スイ様 二月廿四日寂
高崎市上中居町



ご冥福をお祈りいたします。

仁なき知は不毛。知なき仁は無謀。

私の知り合いに新潟の小川屋・小川加津晃五代目社長さんがおられます。

彼は勉強家でいろいろな見識をお持ちですが、その中で一緒に通っている「論語に学ぶ会」があります。主

管は高野大造先生(論語に学ぶ会)であります。いろいろなお話をしてくれます。政治・経済・宗教・人生など何でも教えてくれます。今回はその中で小川さんが書いてくれた文章を掲載させていただきます。(小林国二)

「想いが現実を創り出す」お釈迦様が説いた理論に「三界唯心論」があるそうです。例会のおり高野先生が説明をしてくれましたので要点をお伝えいたします。人は神の分身である。全てのの人に神の種が宿されている。神が意識により全てを創造されたように、私たち一人ひとりにも意識によりすべてを創り出す力が宿

されている。

三界唯心とは、すべての世界は自らの心、即ち思いの反映である！ 分り易く云うと、人間一人ひとりの現実や環境は、自らの心、即ち思いが創り出し、引き寄せたものである。

今アメリカでは「ザ・シークレット」という本が八百万部を超えるベストセラーになっているが、これは釈迦の「三界唯心論」を「引き寄せの法則」として世に問うたもの。日本語に翻訳されて角川書店から出ております。

私が「神の分身」などと云われても冗談としか思えませんが、人の想いが現実を作りだすに關しては、諺に「笑う門には福来たる」とありますので、昔の人は直観として分かっていたのかもしれない。

現在の厳しい環境も我々人間の想いが創り出したものならば、「仁」に根ざした想いを積み上げれば、必ず事態

は好転するのでしょうか。逆に考えますと、これだけ「仁」を意識し実践を迫られるのは、大異変のおかげかもしれません。

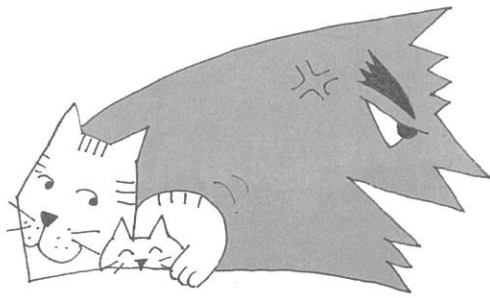
〔高野大造著テキスト引用〕
〔読み下し〕 子曰、仁に里るを美と為す。扱びて仁に処らざんば、焉んぞ知なるを得ん。

〔原文 里仁第四067〕子曰、里仁爲美。擇不處仁、焉得知。〔通釈〕孔子云う、「思いと行ないの拠り所を仁(利他愛)に置くというのは、美しく立派なことである。事に処するに自ら仁を扱んで対処しな

つかたら、どうして真に智慧ある者と云えようか」と。

〔解説〕この章の仁は、「利他愛」或いは「利他の気持」と訳したら、しつくり来ると思えます。知とは仁あつての知に根ざした所の知である。仁不在の知(仁の根つこから断ち切られた知が独り歩きしたらどうなるか? 「自

分さえ良ければ、人はどうなるかと構わない!」とする、誠に以て「利己知」というか、「狡猾知」になってしまうのではないのでしょうか。知は、人を生かし己を生かしてこそ、その本領を發揮するものですから、仁なき知(仁不在の知は「不毛の知」と云えるでしょう。これとは逆に、知を欠いた仁というのも困りものですね。



近年子供の誘拐事件が頻発しておりますけれども、

事件を犯した人は、甘やかされて育った人が多いようです。「猫可愛がり」という言葉がありますが、舐め回すように甘やかされて育った子は、しつかりした大人に成長しにくいのではないのでしょうか。前にキレル子の話しをしました。動物も親の溺愛が原因のひとつではないのでしょうか。動物は子供に、やっつていいこととやっつてはいけないことを教え込むのは、親の責任です。やっつてはいけないことをやった場合には、厳しく叱る。これは親として当たり前のことなんですね。溺愛、つまり、知を欠いた仁は「無謀の仁」と云えますね。

〔二言メッセージ〕「仁なき知は不毛。知なき仁は無謀」
〔子供論語 意訳〕孔子様がおっしゃった「君達! 何かやろうとする時は、自分だけでなく人にも喜ばれることなのかどうかを、よく考えてから実行しなさい。自分さえ良ければ人はどうなるう

とかまわない!」と、思っただけで行動すると、あの子は自分勝手の人だと思われてしまいますからね」と。
〔親御さんへ〕当会青年部「後長塾」が発足致しまして、第一講「孫子の兵法・序」が、地鶏庵げやき通り店で行なわれました。27才〜44才迄の前途洋々たる若者8名が集った訳ですが、全員に共通する最大の特徴は、驚くほど「素直である!」ということなんですね。ひねくれて斜に構えている者は一人もいないんです。人間、素直である! というのは最大の財産です。何かあつた時は、必ず協力者なり援助者が現れるんですね。素直な人には、なぜかと云うと、素直な人というのは普段から「縁」を大切にしているからなんです。「縁を大切にしている者は縁によりて生かされ、縁を粗末にする者は縁に捨てられる」と申しますが、人はいろいろな縁によつて生かされている存在ですから、当たり前と云えば当たり前の話ですね。
(テキスト引用終わり)

旬歌 愁灯

[二十一話]

バルバリバルバラ

加瀬由紀子

昨年秋、シャンソン歌手の清水康子さんから携帯電話が入った。清水さんは、ゴールデンウイークにKAKA笑の会主催のコンサートに出演、安善寺へおいでいただいたことがあるので、ご存知の方も多いと思う。

「大木康子さんがファンの方々に御礼をこめてコンサートを開くのでぜひいらしてね」という内容だった。よくあるお知らせで何を今さら……と、既に他の予定もあり東京行きを断ったのだが、今にして思うとそれは大木康子さんの最後のお別れのあいさつ、最後のライブ、歌声だったのだ。

ースしたのは彼女であり、その後も銀巴里や各地のコンサートで、シャンソン歌手として不動の地位を築いていった。天性の才能を感じさせるその歌声は、歌謡曲界が羨望を覚えた。

ひばりなら、シャンソン界ではこの人と定評が高かった。NHKの歌の番組で彼女の歌を初めて耳にした時のことだった。さらりと歌っている同じ「ド」の音が時には明るく、あるいは甘く、次

には哀調を帯びて、と見事に表現が変わる上手さに感動したものだ。今から三十年も前のことながら、「大木康子」の名を私はすっかり記憶していた。

清水康子さんは大木康子（一人とも康子で紛らわしいため、以後、苗字のみ）さんの事務局、マネージメントも兼ねており、三年前のちようど今頃、目白での交渉が重なった。私が主催する同好会「ル・ヌーヴォー、ワインの会」の、ホテルでのディナー・ショーに大木さんを招きたい、と清水さんのHPにアクセスしての実現となったのだが、なかなか、まとまらなかった。翌日新潟市でのコンサートに協力するという条件で折り合わなかったギャラでもやっ

と引き受けてもらった。三年前の七月十四日巴里祭の夜、百五十名のお客さん、は、四種類のワインを組み合わせたディナーを楽しんだ後、第一部の清水さん、椿井亘さん（男性のシャンソン歌手）の歌に続いて現れた、第二部の大木さんの語りかけるような歌声に驚嘆の歓声を上げたのだった。初めて私が大木さんの歌を耳にした日のように。

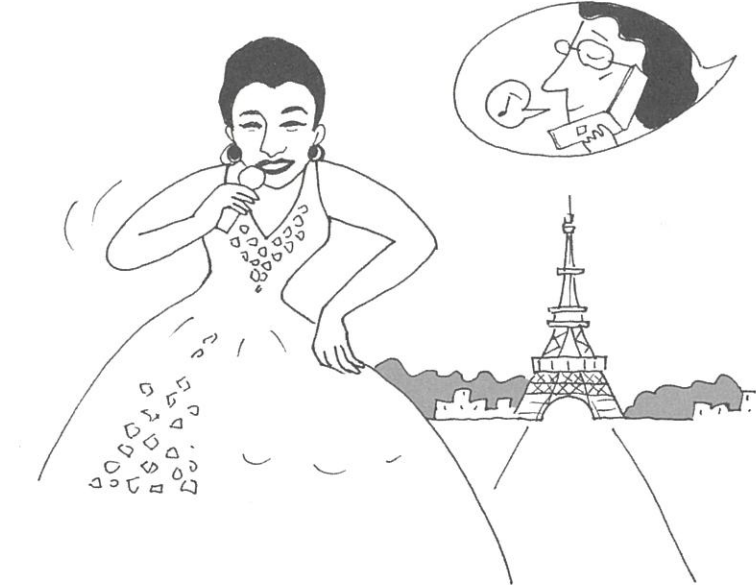
さて、私の一番好きな彼女の唄を披露しよう。タイトルは「バルバリバルバラ」。

通り過ぎる人たちが
足を止めて聞きほれる
心ゆくその調べに
ポケットから小銭が飛ぶ
ゆとりのない人なのに
歓びにあふれていた
傍らではいつも
バルバラが愛の夢を
唄っていた

※(繰り返し)
あの暗い時代へと
世界中が覆われた
白髪の老紳士も
バルバラも今はない
手回しのオルガンは
骨董屋の店先に
古き佳き時代を
偲ばせて飾られていた

※バルバリバルバラ
時は移り 人も街も
変わっていくけど
春はめぐりまた人生が
こんな風に
くりかえされる
バルバリバルバラ

※(繰り返し)
この歌を聴くたびに
訪れた、パリはモンマルトルの丘の広場で、手回しオルガンを弾いていた大道芸人を思い出す。そして二月二日肺ガンで死去(六十六歳)、大木康子という日本シャンソン界の名エンターティナーを悼み、ご冥福を祈りたい。





ちよつと変わり者？ ボブです！よろしくね！！

昨年の十一月に「ペコ」が亡くなってから三ヶ月が経ちました。

副住職が月のお参りにお檀家さんに伺うと、「ペコちゃん亡くなったんですってね」「今度、あのコーナーはどうなるんですか？」と聞



かれることが多かったとのこと。正直、自薦(サクラ)他薦(ボブ)はありましたが、やはり猫のほうが『癒し』系ということ、ペコに変わ

り私、ボブがこれから『ボブの独り言』をお伝えしていきたいと思っております。

そう言っても私はペコと違い、雄猫ですのでこれらの季節、夜遊びに出かけることが多くなります。昨晩も夕方玄関が少し開いていたので外に出ましたら、帰って来たときには玄関の鍵は閉まり、電気も消え真っ暗。相当冷え込んでいましたが、私が居ないことに気づいたお兄ちゃんが、玄関を開けて呼んでくれたのでホッといたしました。

季刊三十六号でも紹介されましたが、私は中越地震の翌年の夏からお寺の一員に加わりました。 どういうわけか私は「水」が大好きです。小さいときはお兄ちゃんがお風呂にはいると、私もついて行って、時々お風呂に手を入れて遊んでいたりもしました。最近トイレの手洗いのところの水がお客様が帰ら

れた後、出っ放しのことが多く、住職は「水道の蛇口は統一していないから仕方ないね！」と言って、離すと止まる自動に切り替えてもらいました。

私にとってはそこに行つて手を出せば水が飲め、私とその場を離れると止まってくれるので、最高です。でもこの前、私がいつものようにそこで座っていたら、トイレに入つてこられた人がいて「ビックリした！置物かと思った」と驚いていました。せつかく其処へ水を飲みに行つてのですから、飲む仕草をしたらその人はまたまた驚いて、廊下で会ったお母さんに報告していました。やはり私は変わっているのでしょうか？

にゃん

編集 雑感

季刊誌が届く頃は桜の花の蕾が膨らむ頃かな。待ちわびた春の日差しや新芽の綻びにきつと感動している頃でしょう。

世界同時不況の中懸命に生きる人達は冬から春への明るい期待を持って生活をしています。ところが、日本は平和ボケからか、はたまた危機管理能力に乏しいのか、何ともしがたい状況下になっていきます。世界平和は口先だけでいつの世も良くなる訳ではありませんし、戦争も終わりません。政治も経済も教育も環境も全てがおざなりになってしまっています。こんなことで良いのでしょうか。と言って、一人一人の力は弱いものです。昔、流行った言葉で「わ

お便り原稿用紙

季刊誌では、檀信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

かっちゃいるけどやめられぬ」と言うのがありました。まさに、そんな状況です。判っていないもどうすることも出来ない閉塞状態です。長い冬の時代が続きそうです。素晴らしい幸せな話もありません。安善寺に本物の春がやってきます。現副住職さんのご婚礼の話です。皆様にもご案内が行ったことでしょう。ここは素直に喜べる場所です。婚儀は仏式で安善寺本堂で執り行われます。本堂が狭く大勢の方々に見守って戴けないことは残念です。しかし、ご披露宴では仏式の婚儀をビデオで再現させて戴きますからご覧戴きたく思っております。安善寺の歴史が続く瞬間に立ち会える喜びを皆様と分かち合いたいです。歴史・伝統・文化の継承が成されることは日本にとって大切なことです。普段何気ないことでも昔からの伝承が多くあります。日本の心を忘れずにですね。また、この季刊誌は投稿を期待しております。皆様のお話お聞かせあれ。小林国二